

ネットワーク型共同利用・共同研究拠点の充実に関する主な論点

1. 共同利用・共同研究拠点制度におけるネットワーク型拠点の意義・目的

- ・ 多様な研究課題に柔軟に取り組むことを可能とし、幅広い研究活動を促進
- ・ 大学の枠を越えた研究拠点の形成、卓越した研究拠点の形成の促進
- ・ 共同利用・共同研究拠点の機能を高め、組織を活性化

2. ネットワーク型拠点の特徴

＜研究の多様性＞

- ・ 学術の発展に応じた柔軟な組織編成、研究の深まりに伴う新たな研究課題の設定・取組
- ・ 異分野の融合、新たな学問領域の創成に向けた萌芽的な取組の促進
- ・ 従来の組織を活かした研究分野の多様化への対応
- ・ 単独の研究施設の規模を超えた共同利用・共同研究への対応、個々の研究機関では実現できない研究基盤構築

＜研究者・人材育成＞

- ・ 新しい研究者コミュニティ・拠点の形成、研究者交流の活性化
- ・ 研究リーダーが多数存在することによる拠点活動の活性化
- ・ 学生、若手研究者の交流の活性化による人材育成機能の強化
- ・ 技術職員の連携促進

＜資源・利便性＞

- ・ 施設・設備の効率的な整備・運用
- ・ 資源配分の柔軟性
- ・ 外部利用者における利便性（共同利用に際しての事務及び管理の一元化、共同利用サービス機能の向上、複数の拠点にアクセスが可能 等）

3. 現状における検討事項、課題、今後の論点

- ・ 単独型拠点とは異なるネットワーク型拠点の位置付け、認定基準の明確化
- ・ 中核拠点の役割
- ・ 同分野研究施設のネットワーク化、部分的に研究分野が重なる研究施設のネットワーク化、異分野研究施設のネットワーク化
- ・ 連携ネットワーク型拠点における大学共同利用機関、独立行政法人等を「連携施設」としたネットワーク型拠点の整備
- ・ ネットワーク型拠点を構成する機関数（現在は3機関が最小）
- ・ ネットワーク型拠点の評価の在り方（単独拠点との違い）